

ねらい

我が国は人口減少時代を迎えているが、これまで成長を支えてきた労働者が減少しても、トラックの積載率が41%に低下する状況や道路移動時間の約4割が渋滞損失である状況の改善など、労働者の減少を上回る生産性を向上させることで、経済成長の実現が可能。そのため、本年を「**生産性革命元年**」とし、省を挙げて**生産性革命に取り組む**。

経済成長 ← 生産性 + 労働者等

労働者の減少を上回る生産性の上昇が必要

3つの切り口

「**社会のベース**」の生産性を
高めるプロジェクト

「**産業別**」の生産性を
高めるプロジェクト

「**未来型**」投資・新技術で
生産性を高めるプロジェクト

生産性革命プロジェクト13 ー国土交通省生産性革命本部(本部長:石井大臣)決定

「社会のベース」

渋滞をなくすピンポイント対策と賢い料金
クルーズ新時代の港湾
コンパクト・プラス・ネットワーク
土地・不動産の最適活用

「産業別」

建設産業 i-Construction
住生活産業
造船業 i-Shipping
物流産業
トラック輸送
観光産業

「未来型」

科学的な道路交通安全対策
成長循環型の「質の高いインフラ」海外展開

オールジャパンで取り組む「物流生産性革命」の推進

- ・近年の我が国の物流は、トラック積載率が41%に低下するなど様々な非効率が発生。**生産性を向上**させ、将来の**労働力不足を克服し、経済成長に貢献**していくことが必要。
- ・そのため、①荷主協調のトラック業務改革、自動隊列走行の早期実現など「**成長加速物流**」、②受け取りやすい宅配便など「**暮らし向上物流**」を推進し、物流事業の**労働生産性を2割程度向上**させることを目標とする。

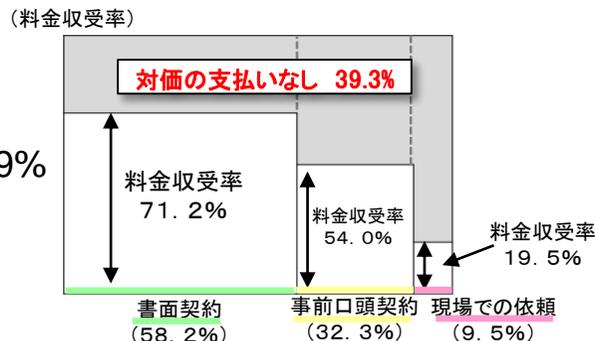
我が国の物流を取り巻く現状

■トラックの輸送能力の**約6割**は未使用



(出典)国土交通省「自動車輸送統計年報」

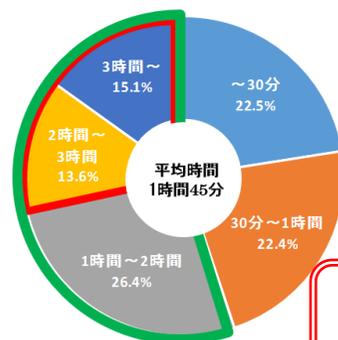
■**約4割**の荷役業務で対価が支払われていない



(出典:平成27年度 国土交通省・厚生労働省による実態調査)

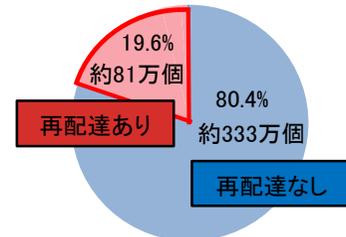
■1運行で**2時間弱**の手待ち時間が発生

1運行あたりの手待ち時間の分布



■宅配便の**約2割**は再配達

【再配達の発生割合】



(平成26年12月 宅配事業者3社によるサンプル調査)

■天井高さ3mでは、**70%以上**の路線トラックが屋内駐車場に入れない

オールジャパンの物流力を結集し、物流を大幅に効率化・高度化する「物流生産性革命」を断行

(1) 移動時間・待ち時間のムダ、スペースのムダ等の様々なムダを大幅に効率化し、生産性を向上。

→ 我が国産業と経済の成長を加速化(「**成長加速物流**」)

(2) 連携と先進技術で、利便性も生産性も向上。

→ 国民の暮らしを便利に(「**暮らし向上物流**」)

【数値目標】

物流事業(トラック・内航海運・貨物鉄道事業の合計)の就業者1人・1時間当たりの付加価値額※を将来的に**全産業平均並み**に引き上げることを目指して、**2020年度までに2割程度向上**させる。

※ 人件費、経常利益、租税公課、支払利息、施設使用料の合計

(1) 「成長加速物流」(取り組む施策の例)

移動時間・待ち時間のムダ、スペースのムダ等の**様々なムダを大幅に効率化し、生産性を向上**。

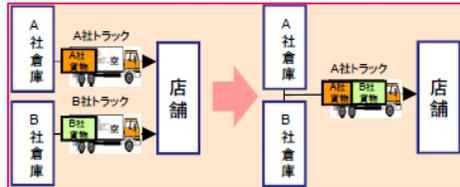
① トラック物流の刷新

荷主協調のトラック業務改革

- ・協議会での課題抽出、対策の実施
- ・契約書面化の促進



中継輸送を含む共同輸配送の促進



【目標】
積載効率を約2割向上
(2014年度: 40.9%→2020年度: 50%)

自動隊列走行の早期実現

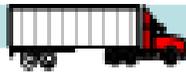


【目標】
2020年以降のできるだけ
早期にトラックの隊列走行
を可能とすることを旨す

ピンポイント渋滞対策、渋滞をなくす
賢い料金

物流を考慮した建築物の設計・運用の促進
(デザイン・フォー・ロジスティクス)

【目標】
・2016年度に設計・運用ガイドライン策定



② コンテナ輸送の刷新

- ・海上輸送を可能とする
高度な鮮度保持技術の
開発・普及
- ・背高コンテナ対応の
低床鉄道貨車の開発

オゾンの生成による鮮度保持
コンテナ内に高電圧を通电させ、オゾン(菌の繁殖を抑制)を発生させることにより鮮度を保持。



【目標】
・農林水産物・食品の輸出額1兆円 (目標: 2020年)
・2016年度に低床貨車の実証事業。早期事業化へ
・鉄道コンテナの平均積載率を80%まで向上させる
(目標: 2020年度)

③ 港湾の刷新～産業支援機能強化～

- ・ふ頭再編による非効率な**横持ち輸送の削減**
- ・岸壁の確保による**沖待ちの解消**
- ・遠隔操作化等による**荷役能力の向上**
- ・受付自動化による**ゲート処理の効率化**

【目標】
2016年度から2018年度までターミナル高度化について実証事業を行い、早期の効果発現を目指す

④ 海運の刷新

- ・ビッグデータを活用し、
気象や海象に応じた最適な
効率的運航を実現
- ・省エネ船の導入促進
- ・海上交通管制の一元化による
湾内の混雑緩和



【目標】
雑貨貨物の内航海海上輸送量を10%増加
(目標: 2020年度)

(2) 「暮らし向上物流」(取り組む施策の例)

連携と先進技術で、**利便性も生産性も向上**。

①受け取りやすい宅配便

- ・ 宅配便の再配達を削減するため、消費者と宅配事業者・通販事業者間の**コミュニケーション強化**（配達時間の変更の容易化等）
- ・ 消費者の受取への**積極的参加**の推進
- ・ 受取方法の更なる**多様化・利便性向上**



【目標】

・ 今後、駅等公共スペースに新たに設置するロッカーは、原則として全ての宅配事業者、通販会社も利用可能なオープン型ロッカーとする。

②身軽な旅行を実現する物流

宅配サービス等を活用した
手ぶら観光・手ぶら出張の環境整備



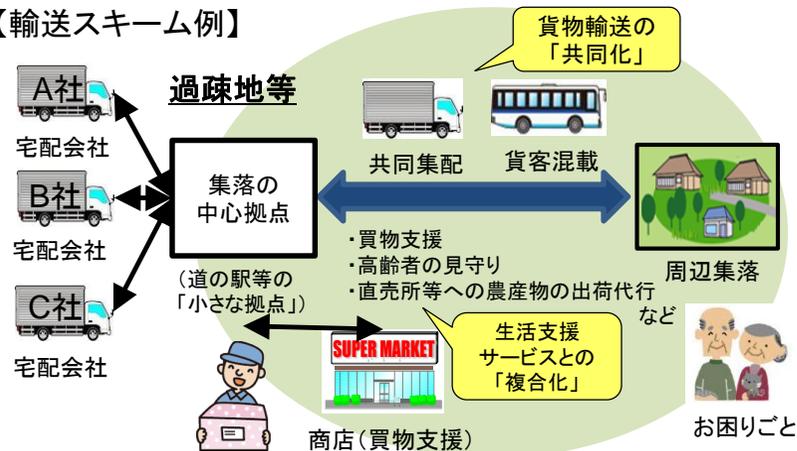
【目標】

・ 2020年までに手ぶら観光カウンターを全主要交通結節点に設置。

③過疎地でも便利な物流

- ・ 共同集配、貨客混載、生活支援サービスとの複合化等により輸送を効率化・利便性を向上

【輸送スキーム例】



【目標】

地域内配送共同化の関係者連携のモデル事例を2020年度までに100事例創出

④ドローンによる荷物配送

- ・ 小型無人機（ドローン）による荷物配送を可能とするため、安全確保を前提としつつ、**必要な環境整備を加速**し、関係者の取組を後押し。



【目標】

早ければ2018年頃までに、ドローンを使った荷物配送を可能とする。